

傳葉田舎原氏

二十

特 別

^13

4274

20



婿
中
願
所



十二編上

113
4274
20

91-2351

天保 丙申 孟春 發行

柳亭種彦作歌川國貞画



上冊

倭紫

田舎源氏

第二十編



東都

通油町

鶴屋

喜右衛門

版

田舎源氏第二十編叙

忠臣蔵の五段目へ猪ふおをれて定九郎が跡あむと云ふは後炮の
會するの幕と云ふ。ちア勘平をまじりのやを舞のつれま定九郎が
うたれし隠れ向ありと腹切が重なりて見物の氣がめいのか
故悪の報と目茶にあらうとを見せしときん。須戸の石も後冊の
る不もと眠氣のさ事。身一星のるぬと巳の日の核果ハ我身はかこ
とも白本綿うけ山伏の祈りの段の冷き後。打通りぬべく後炮而
落かりぬべく震動電。あまを見送る白糸がふを煙りかゝりて死さられ
後炮赤は似くらんと被定九郎が倒ふよりん人飽せしと又は編も
巻が早うち筆へ糸地のくさるるもく辺づく善の門 神樂
獅子より先へいんん賣出と急がれて最倉率と務を脱せ
けおるまやがの傍一場をたりとるては場を
よと切りさるそおわれまうとを影宅よ

柳亭種彦記



宗入の愛玉
 朝霧

今も
 あふ
 今も
 世も

朝霧
 侍の女
 鳥

源氏物語の御覧
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語

御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧

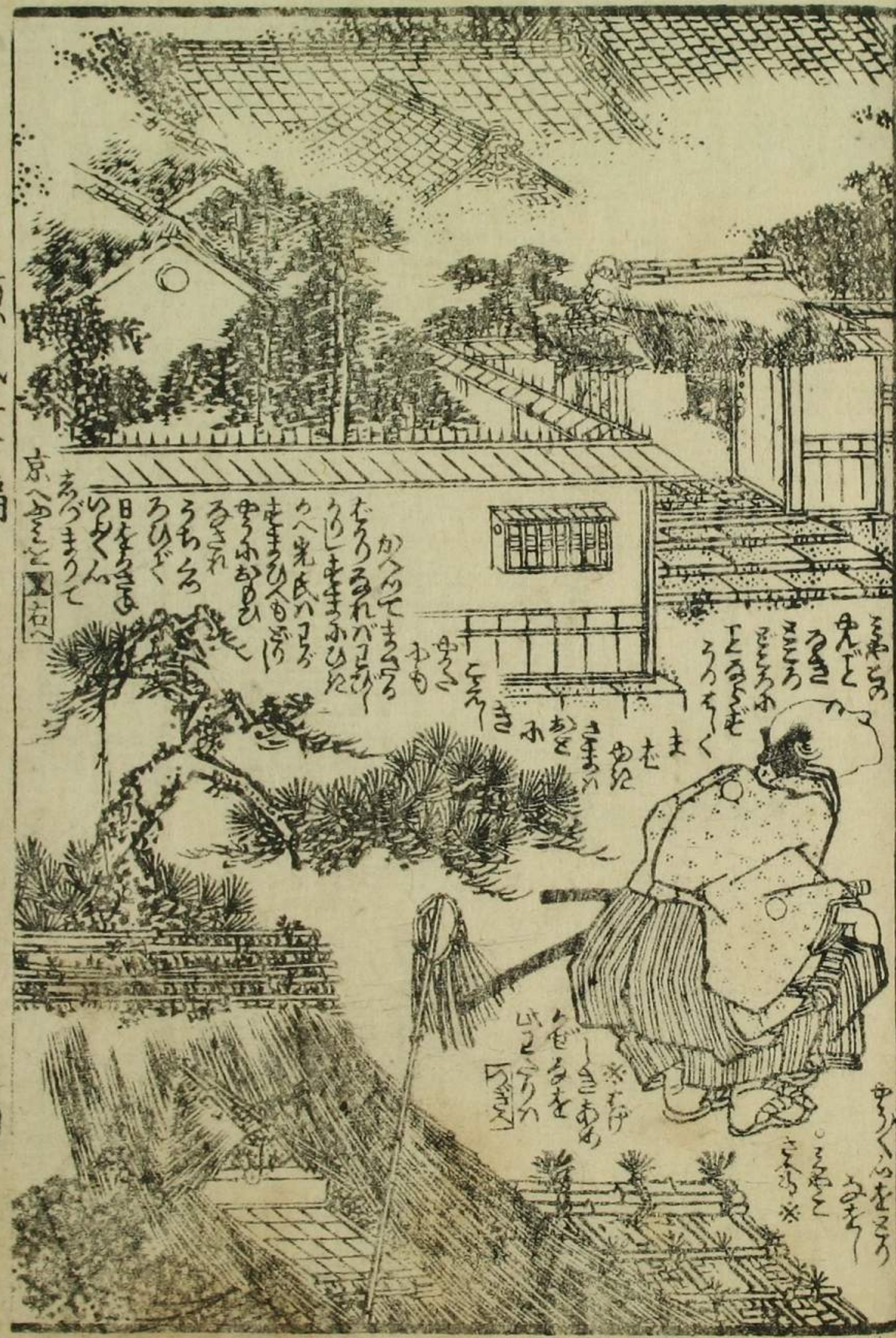
源氏物語の御覧
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧

源氏物語の御覧
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧



源氏物語の御覧
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧

源氏物語の御覧
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧
御覧の物語
物語の御覧



京へかきこ

かへりてまゐる
わたりあられは
うしむまはひひ
うへ光氏のか
ままうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ

あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ

あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ



京へかきこ

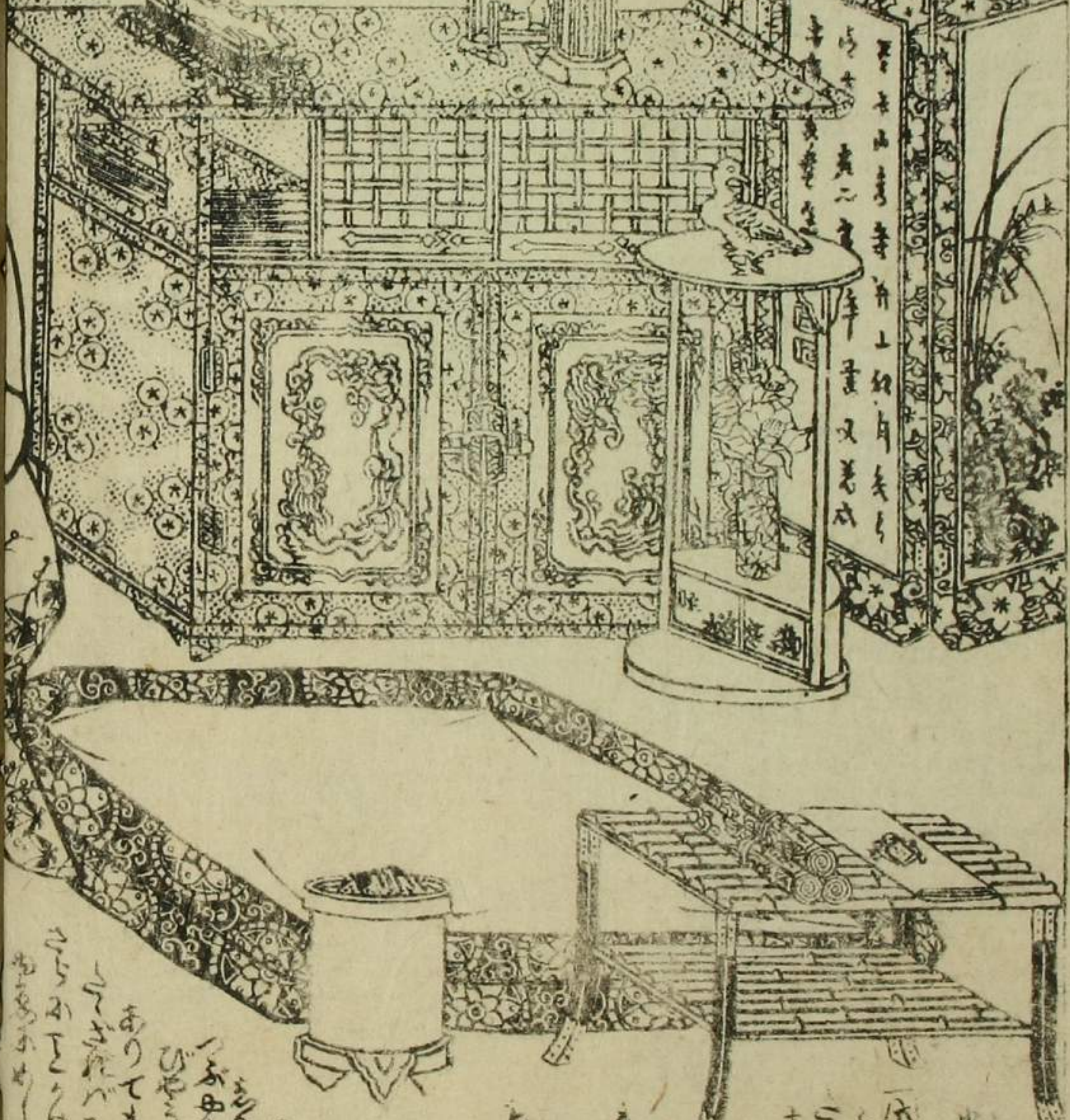
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ

あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ

あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ

あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ
あうひひひ

「きしりしは
のかさきめを
さつててを
ふあひむひ
ふんよをふひ
ふまればま
くけをくさん
くひむひく
あひむひを
うてとのこ
まひひま
おむけの
さきふの
おろろろく
ふらへく



「あつても
さつててを
ふあひむひ
ふんよをふひ
ふまればま
くけをくさん
くひむひく
あひむひを
うてとのこ
まひひま
おむけの
さきふの
おろろろく
ふらへく



「あつても
さつててを
ふあひむひ
ふんよをふひ
ふまればま
くけをくさん
くひむひく
あひむひを
うてとのこ
まひひま
おむけの
さきふの
おろろろく
ふらへく

「あつても
さつててを
ふあひむひ
ふんよをふひ
ふまればま
くけをくさん
くひむひく
あひむひを
うてとのこ
まひひま
おむけの
さきふの
おろろろく
ふらへく





宗入三昧堂中
光氏と因談を

光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす

光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす

光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす

光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす

原氏二十編

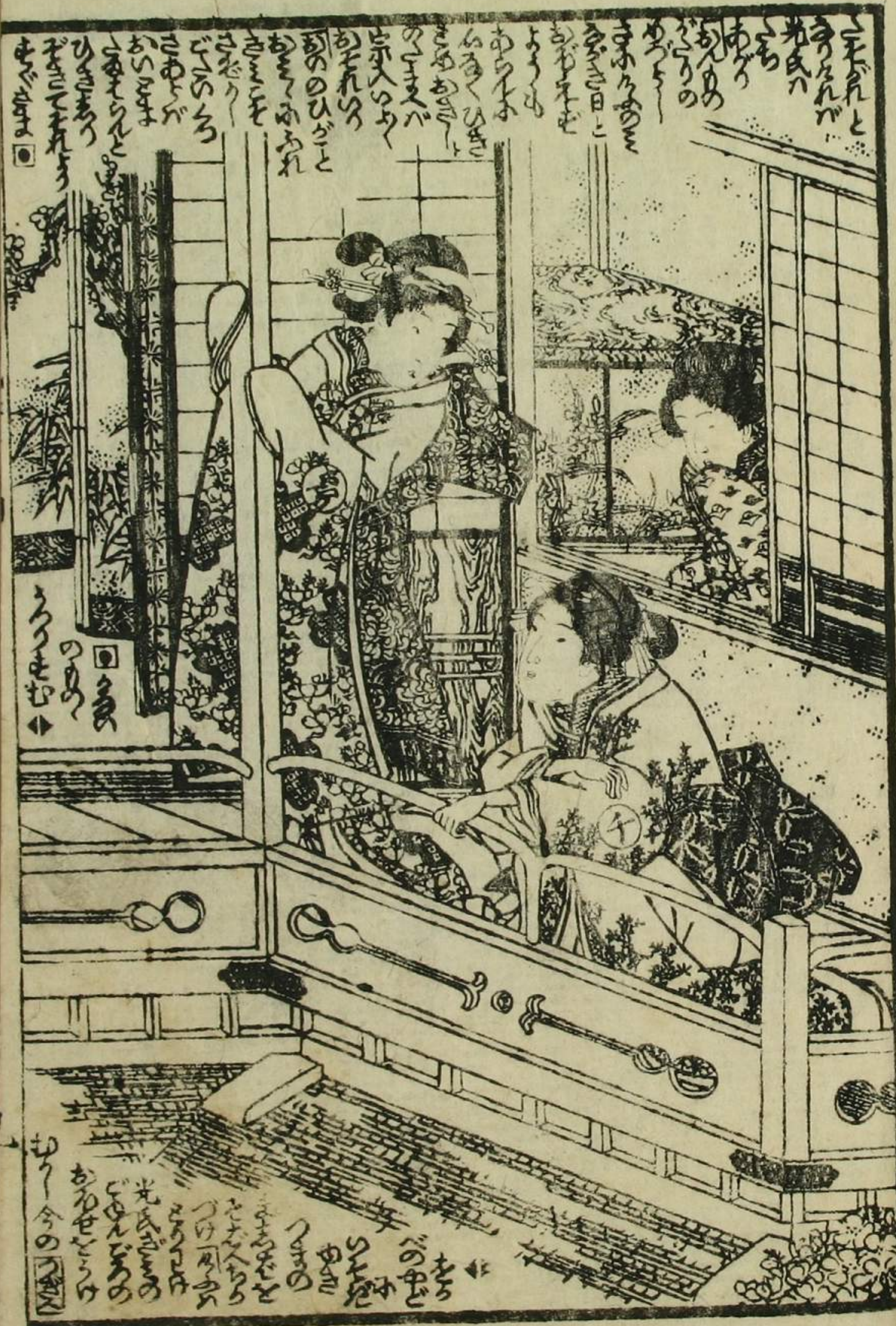


光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす

光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす

光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす
光氏は宗入の三昧堂の中
に居て因談をなす

七



宗入が
 おそれり
 町のひごと
 おもひふれ
 さきま
 宗入が
 おそれり
 町のひごと
 おもひふれ
 さきま

宗入が
 おそれり
 町のひごと
 おもひふれ
 さきま



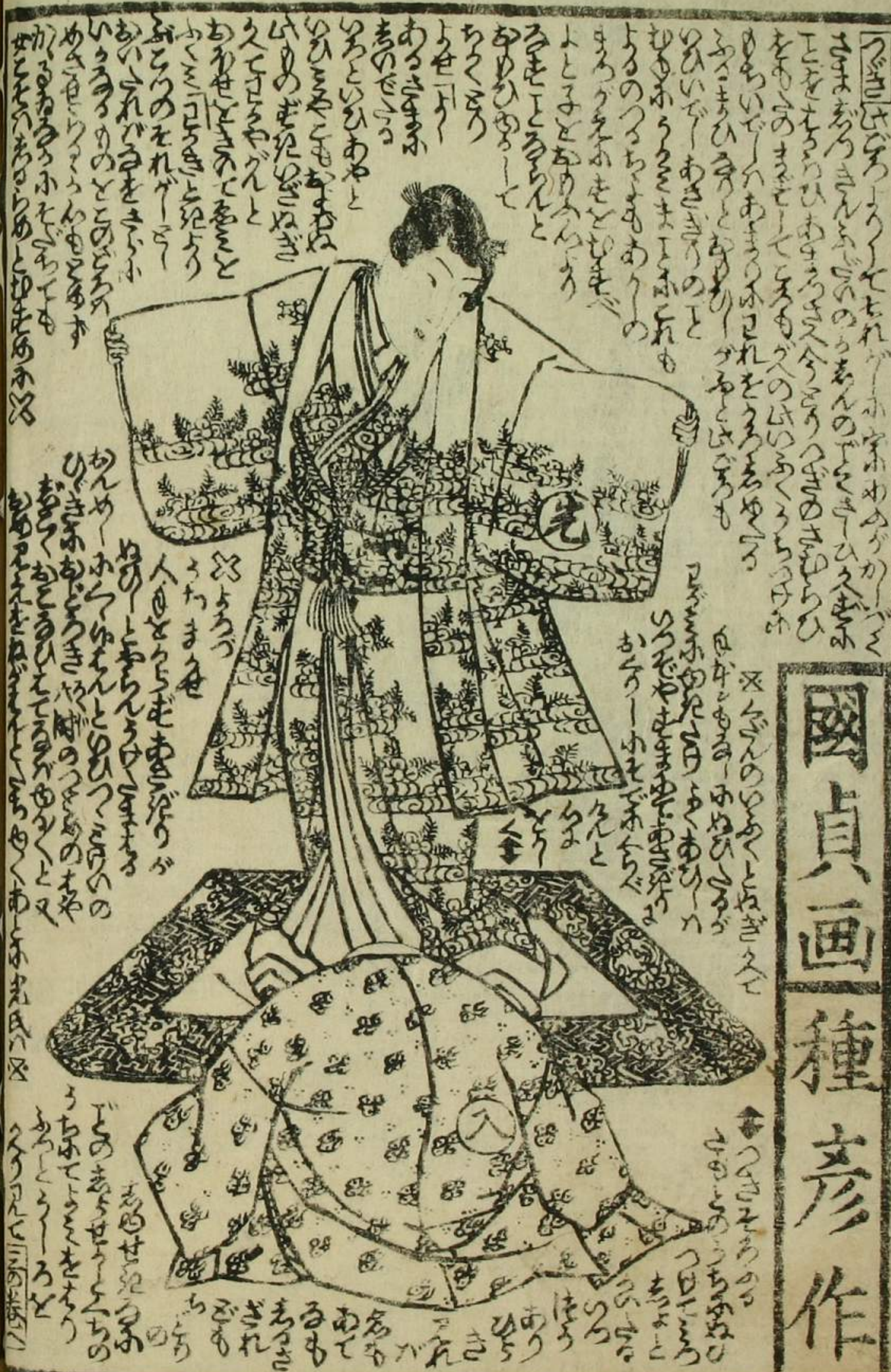
宗入が
 おそれり
 町のひごと
 おもひふれ
 さきま

宗入が
 おそれり
 町のひごと
 おもひふれ
 さきま

宗入が
 おそれり
 町のひごと
 おもひふれ
 さきま



國貞画種彦作



天保七年丙申春新彫

傍紫田舎源氏

柳亭種彦作

歌川國貞画

笠亭仙果作
一筋道雪眺望 全四冊

笠亭仙果作
後久の十徳
後甲の孫子世話蒙求 全四冊

種彦校合
井筒屋の箱
八百屋の娘
紫房紋及箱
全六冊

笠亭仙果作
糸柳花縁結 全四冊

歌川國芳画

歌川貞秀画

昔齋三ちんちんく三冊
むり諸大さきぶら二冊
種彦校合貞秀画
むり諸浦島づい三冊
茶とあなのいろは二冊
仙鶴堂鶴屋喜右衛門

書物地本錦繪問丸遠油町

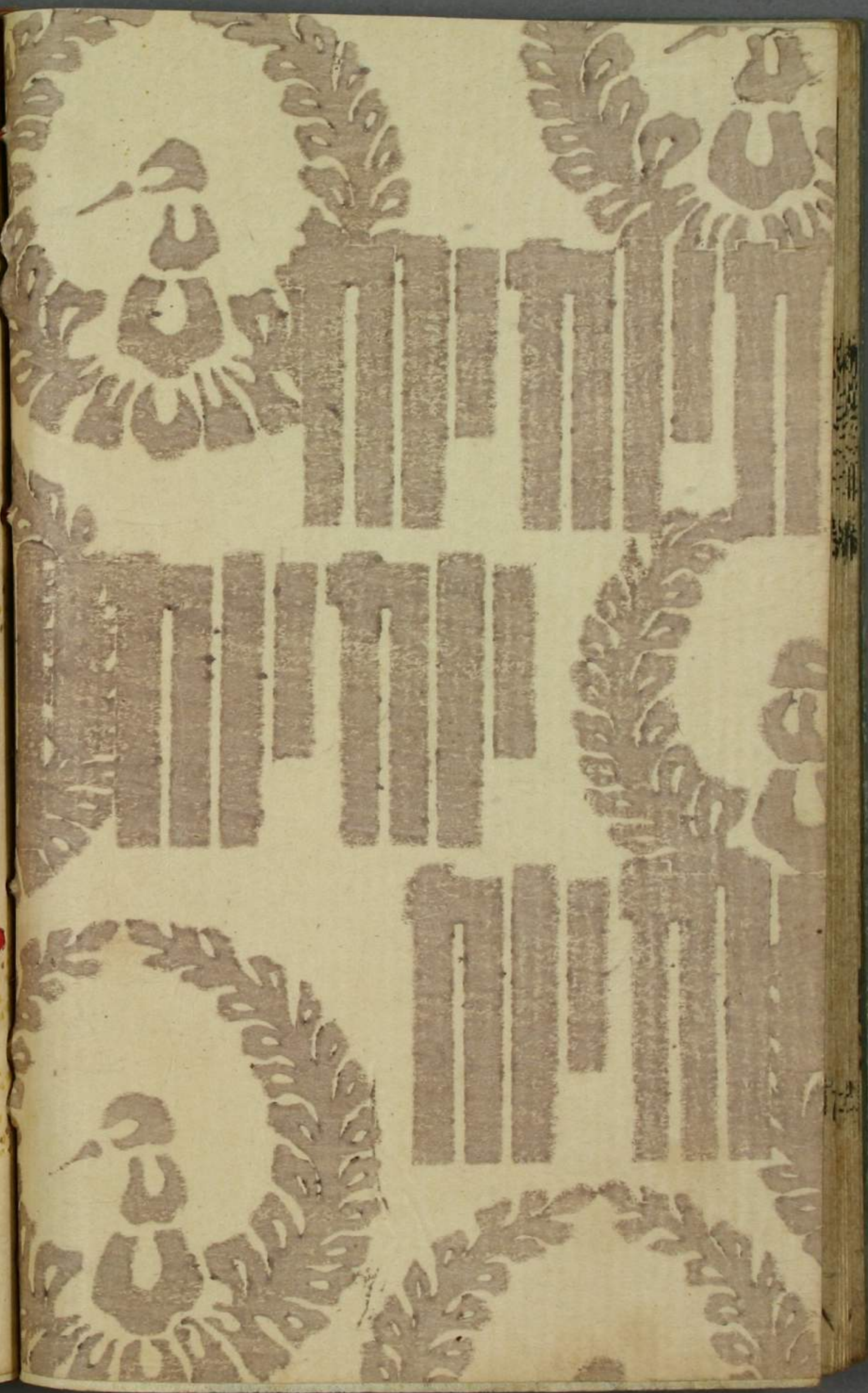
四
貞画

種彦

二十編下



鴉彦
輝





いそがしく
あつひかま
まろの
よを
あつひかま
まろの
よを

白丸氏
あつひかま
まろの
よを



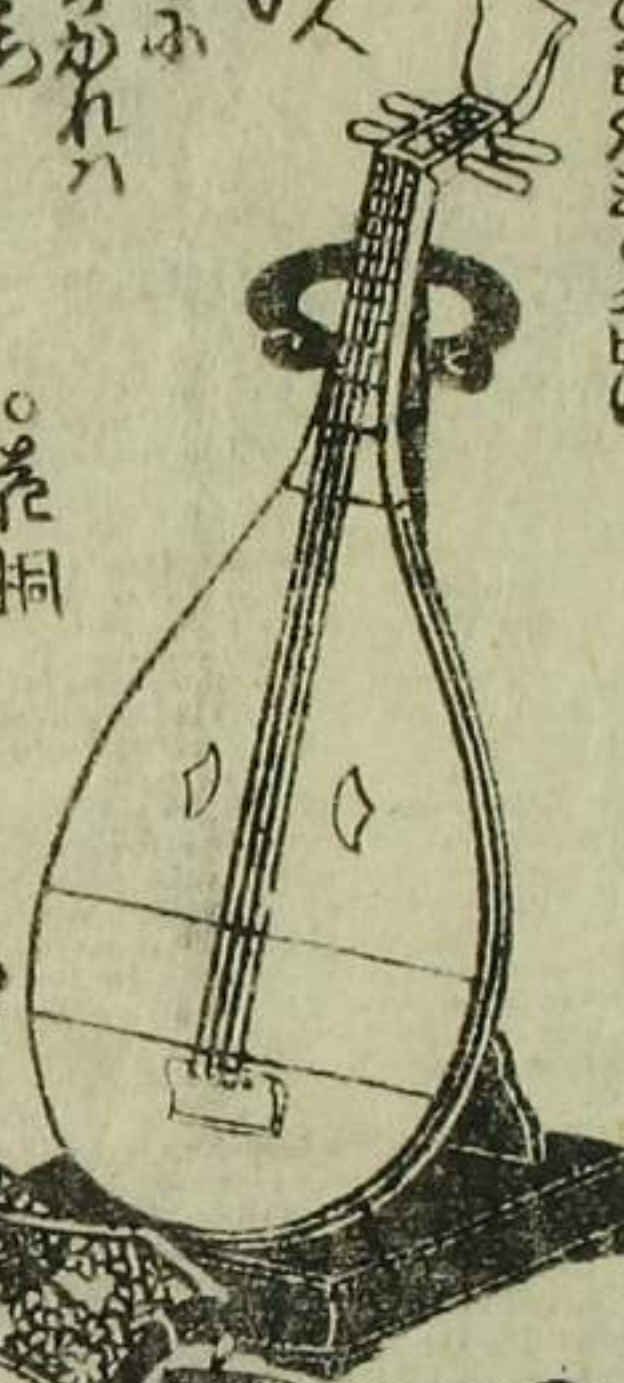
あつひかま
まろの
よを

あつひかま
まろの
よを

入及る物たりけりまめをあらむ人後とつらして
くさしものるれはうらうらとくちかたるかひまきつ
るふしうたんとおむらとせは俗言まひさるるり
つりかあやうのおむらうまらるあせんくさるて昔の
くもかたういづるまらるあひくおむらをあらむ

山名持安
後三宗入

まのつきまもまらうさ
あはまら入りやうき女のいと
くはまらうき女のいと
まのつきまもまらうさ
あはまら入りやうき女のいと
くはまらうき女のいと



花相
いと
まの



うらうら
とこれま
うらうら
うらうら



本より久て宗入がまら
あやうまらひらね



はまらうき女のいと
くはまらうき女のいと
まのつきまもまらうさ
あはまら入りやうき女のいと

知義の
妻後の
嵯峨の後室とり是

まのつきまもまらうさ
あはまら入りやうき女のいと
くはまらうき女のいと
まのつきまもまらうさ
あはまら入りやうき女のいと
くはまらうき女のいと

源氏二十編



うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは
 うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは
 うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは
 うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは

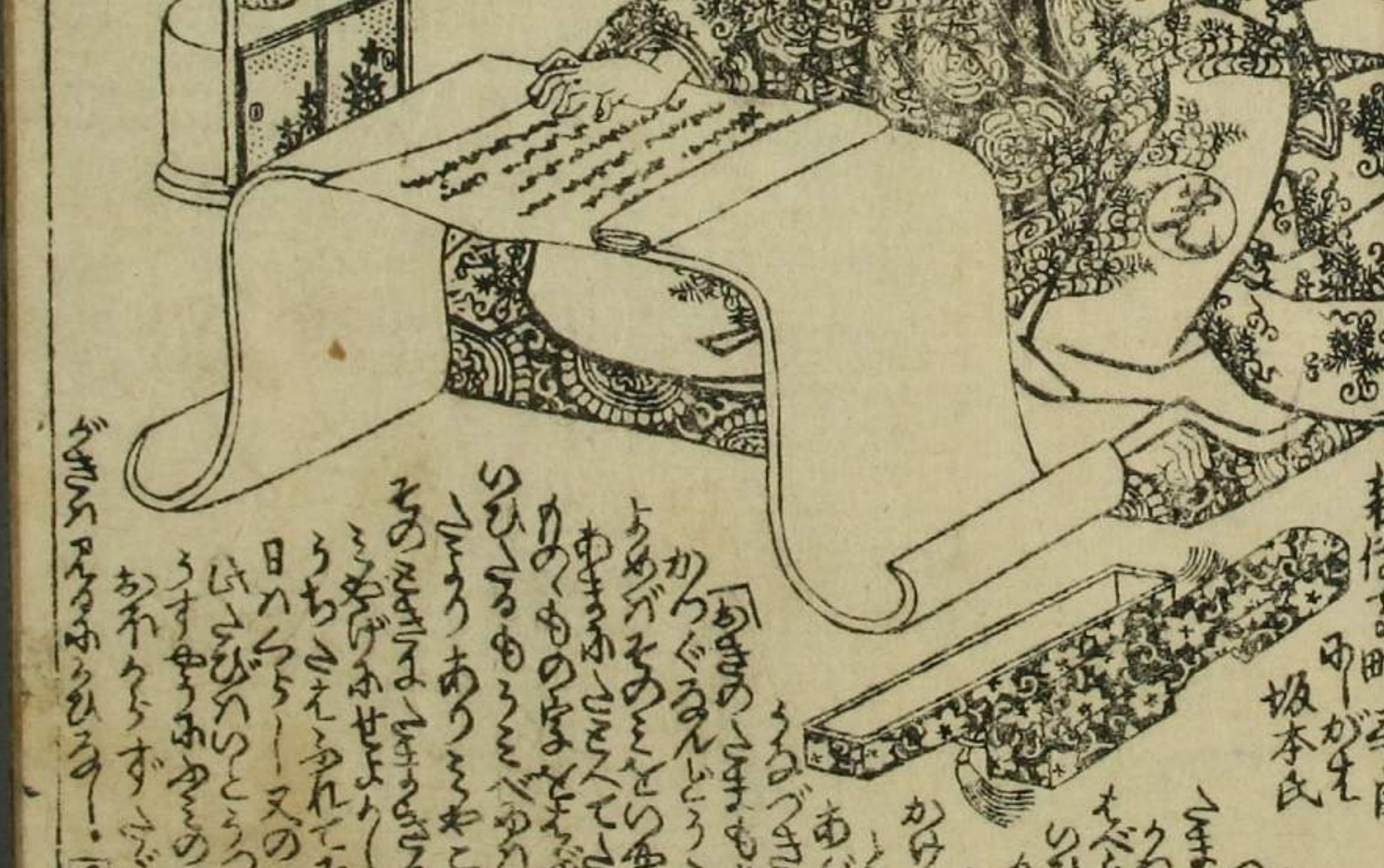
わが心はちまたは
 あはれもなきは
 うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは
 うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは
 うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは
 うらむとわらふまじき
 月夜にまよふ心は
 人の心はちまたは
 あはれもなきは

日記のつとみたるまひてきつりあや
 日記のつとみたるまひてきつりあや
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...

...
 ...
 ...



...
 ...
 ...



さすけの
かたや
うらむす
その年の京にて
山名のくみせんの
甲もあらたの
さすけの
あふりま
つらま
まの

かたや
うらむす
その年の京にて
山名のくみせんの
甲もあらたの
さすけの
あふりま
つらま
まの

ひまの
あふりま
つらま
まの
さすけの
あふりま
つらま
まの



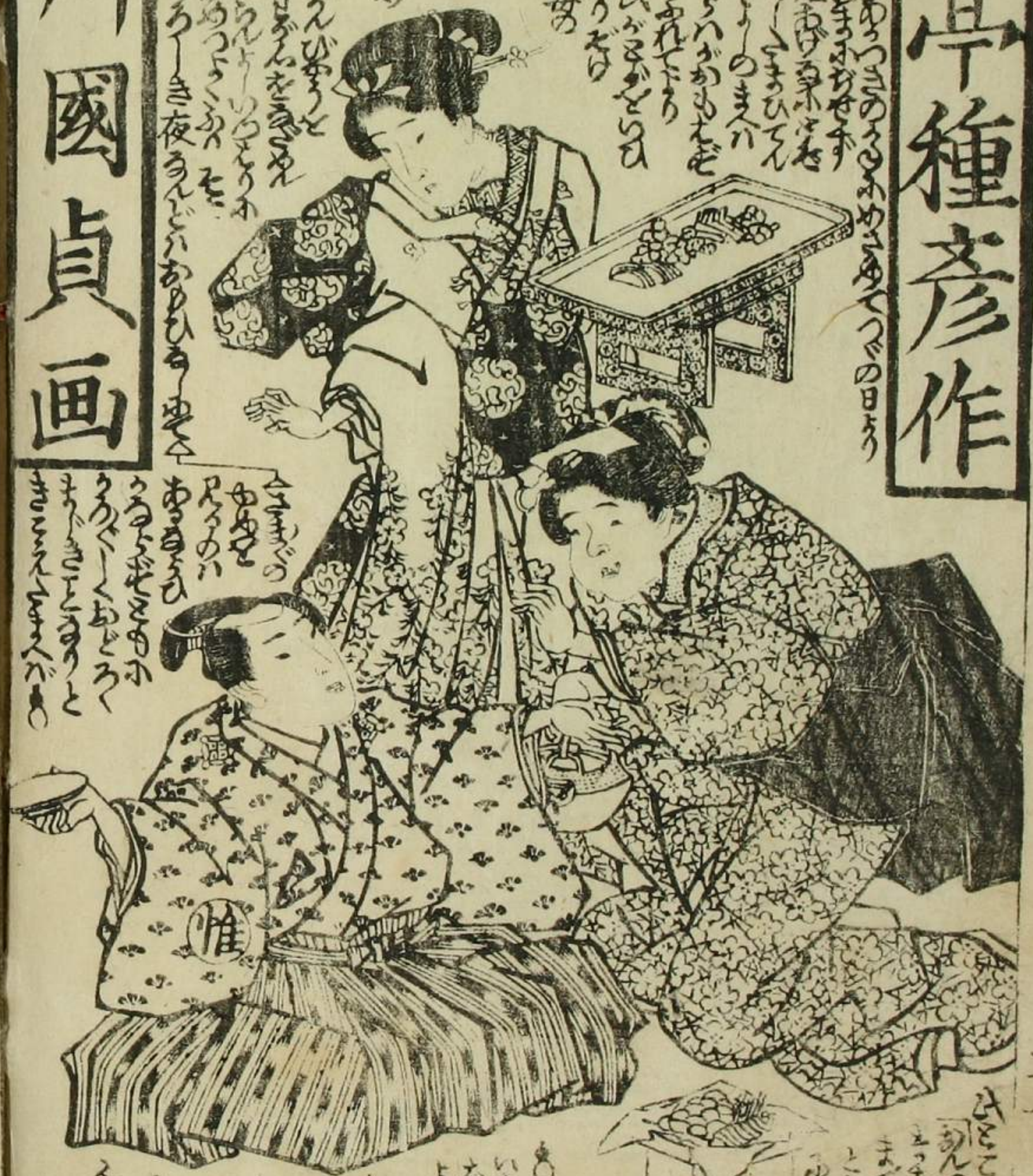
さすけの
かたや
うらむす
その年の京にて
山名のくみせんの
甲もあらたの
さすけの
あふりま
つらま
まの

かたや
うらむす
その年の京にて
山名のくみせんの
甲もあらたの
さすけの
あふりま
つらま
まの

ひまの
あふりま
つらま
まの
さすけの
あふりま
つらま
まの

柳亭種彦作

歌川國貞画



柳亭種彦作
 此圖は源氏物語の一場を写し、
 人物の衣冠は悉く柳亭の筆で、
 其の神韻は實に天竺の妙手
 たるべきなり。此の如きもの
 ありては、實に源氏物語の
 神韻を盡すべし。

此の如きものありては、
 實に源氏物語の神韻を
 盡すべし。

天保七年申春新彫

山東京山作
 琴声女房形氣 全四冊
 歌川國貞画

五柳亭徳作
 森羅萬象心意氣 全四冊
 歌川國芳画

柳亭種彦作
 浮波さしり 八冊
 歌川貞秀画

関亭傳笑作
 烏勘左衛門忠義傳 全四冊
 歌川國芳画

宝田千町作
 縮葉山操の松枝 全四冊
 歌川國芳画

空亭仙果譯
 國字水滸傳 十四編 四冊
 歌川國芳画

柳亭種彦の
 羨艶仙女香甲八相 三十二自西側
 坂本氏制衣
 黒油羨玄香甲八相 板本氏制衣



書物錦繪 江戸通油町
 團扇地紙 問屋鶴屋喜右衛門

